

作新学院大学 ティーチング・ポートフォリオ

所属	氏名	作成日
経営学部経営学科	荒木 宏	2024年 5 月 1 日

【責務】(何をおこなっているのか/担当授業科目その他)

【学部・前期】

公共経営論 A (経営学科)

地域福祉論

NPO マネジメント論

研究ゼミナール I

研究ゼミナール 3

研究ゼミナール 5

【大学院・前期】

経営学特別演習 I

経営学特別演習 III

ビジネスイングリッシュ

公益事業論特殊研究 I

【学部・後期】

公共経営論 A (スポーツマネジメント学科)

公共経営論 B

公民パートナーシップ論

ビジネスイングリッシュ B

研究ゼミナール 2

研究ゼミナール 4

研究ゼミナール 6

【大学院・後期】

経営学特別演習 II

経営学特別演習 IV

公益事業論特殊研究 II

【理念】(どのような考えに基づいて行っているか)

講義や演習を通じて、物事を考える力を養う、特に物事を考える「プロセス」を重視した授業や演習を展開する。人まねばかりだけではなく、自らクリエイティブに物事を考え発信する能力や技法を培うことを目的とした授業を行う。

【方法】(その考えをどうやって実現しているか)

◆講義では、授業前に授業資料を WebClass に掲示し事前学習を行わせ、授業においては、事例研究を用いて質問形式の授業を行う。語学関係の科目については授業後、授業内容の理解力を確認する小テストを行う。小テストは WebClass(オンライン)で行い、学生は問題を解くことにより評価点(正答率)を把握し、また問題の解説を読むことによって復習できるようにしている。

◆演習形式の授業(研究ゼミ・大学院演習)は、「論理的に考え」そしてそれを「表現力(文章化)」を修得することを目的とする。具体的な手法として、新聞の社説を要約させ、その記事の内容の論点を把握する力を修得させる。卒業論文や修士論文など論文の作成においては、テーマの設定、情報収集方法、論文の作成方法を教授するとともに、論文のアウトラインを作成することにより、議論の組み立て(テーマ設定、既存研究の事例・統計などを用いて自分の意見を論理的に説明する過程、結論に至る過程)について学ぶ。さらにプレゼンテーション(発表)を行い、プレゼン内容の目的の明確化、プレゼンの構成、表現力(言語やビジュアルの活用方法)、質疑応答への対応などを通じて、論理的かつ簡潔な表現力の修得を目指す。

【成果】(その方法を行った結果、どうなったか、どうだったか。自身の感想・具体的な成果物・学生からのコメントなど)

講義内容の理解力を確認するため、WebClass において小テストを行っているが、設問に詳細な解説を付与したことにより、学生から復習するのに役に立ったという意見があった。プレゼンテーション(学生自身が興味あるテーマを設定)については、「導入部分⇒本論⇒結論⇒質疑応答」に沿ってプレゼンを行うように指導したところ、パワーポイントで作成したビジュアルな資料を用いて、簡潔にプレゼンを行う手法を習得することができたと思われる。演習科目における論文作成の授業においては、事前に提出された論文の草稿にコメントを入れ添削を行い、そして論文指導を行っているが、特に「序論(導入部分)⇒本論(議論)⇒結論」と論文構成の組み立て、すなわち議論の展開に重点を置いた指導を行うことによって、学生は論理的に議論を展開する思考力が次第に身についてきたように思われる。

【目標】(今後どうするか)

学生の授業内容に関する理解力を把握するため、オンラインによる「双方向授業」を導入することが不可欠といえる。いかに効率的かつ効果的なシステムを構築するかが今後の課題である。